



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

いつでも在る場所

この春に卒業を迎える皆さん、卒業おめでとう。私がいた頃とは違って中学を卒業して親元を離れる子も多いそう。たださえ高校を卒業したらほとんどの子たちが家を離れていくのに。

東京には家から通える高校や大学がいくらでもある。大学受験を控える娘さんをもつ方は家から通うのを望まれとったけど、娘さんは都外を希望して遠くで暮らすことになった。寂しい、寂しいと1カ月ほど落ち込んだ。そんなお母様も元々は信越地方の出身。大学進学で上京したそう。田舎にいればそれは自然の流れで多くの人が直面すること。でも今は家族で東京にいて娘さんが大学に行き、就職して結婚するまでずっと一緒に暮らしていけると思い込んでいた、と…。15歳や18歳で親元を離れるのは、子どもよりも親のほうが寂しいのかも、と思ったら、父と母の顔が浮かんで涙で視界が歪んだ。

卒業生の皆さん、きつと期待に胸を膨らませ希望に満ち、キラキラした目で前を見据えとるはず。その背中を寂しさを隠して送り出す家族がおること、友達がおること、忘れんとってほしい。その分、充実した日々を過ごし、この町にはない物事を見聞きし吸収し、いつかこの町に活かしてほしい。そして、しんどくなったらいつでも帰ってきたらいい。この町はあなたのふるさとで、あなたの味方。あなたに一番、元気をくれる町やけんね。（テノヒラkiku）



本日！海日和！！ vol.160

「長い間ありがとうございました。」

「本日！海日和！！」は、平成22年から掲載を始めて14年間、今月で160号を迎えました。ここまで続けることができたのは、広報「あいなん」担当の方を始め、多くの方の協力のおかげです。何より、素人写真と稚拙な文章を楽しみに待ってくださった愛南町の皆さまのおかげと感謝しております。

私がダイビングを始めたのは大学1回生のときで、40年も昔の事になってしまいました。大学のプールで先輩方から講習を受け、初めて潜ったのが三ツ畑田島でした。船から飛び込んだとたん広がった色とりどりのサンゴや熱帯魚を今でも鮮明に覚えています。

それから足繁く通い、教員としても合計7年間を過ごさせていただきました。晩酌が欠かせない私



【エキジット※ダイビングを終えて船に帰ること】

は、セイヤハシンドウなど多くの珍味も覚え、今でも楽しんでいます。そして、一番の魅力は、愛南町の人々の温かさでした。

撮りだめした写真も少なくなり、還暦を迎えたのを機に、お休みをいただくことになりました。長い間ありがとうございました。紙面を通して再びお会いできる日を楽しみにしております。

（撮影地：横島）

ともてる
愛南サンゴを守る会 西尾知照